

# デクセリアルズ株式会社における知的財産部門の成長戦略への貢献

## はじめに

近年、企業の競争力を左右する重要な要素として、知的財産への注目が高まっている。特に、技術革新が加速する現代においては、知的財産の創造、保護、活用は、企業の持続的な成長に不可欠である。

本稿では、日本の機能性材料メーカーであるデクセリアルズ株式会社（以下、デクセリアルズ）を事例に、知的財産部門が同社の成長戦略にどのように貢献してきたのかを考察する。デクセリアルズは、異方性導電膜（ACF）、反射防止フィルム、光学弾性樹脂など、ニッチ市場において世界トップシェアを誇る製品を多数保有し<sup>1</sup>、スマートフォン、自動車、ディスプレイなど幅広い分野に提供することで、着実な成長を遂げてきた<sup>2</sup>。

デクセリアルズは、知的財産を重要な経営資産と位置づけ、積極的な知的財産活動を行っている。同社の知的財産部門は、特許取得、技術開発、ブランド保護などを通じて、同社の成長に大きく貢献してきた。本稿では、デクセリアルズの知的財産部門の活動内容を具体的に示し、その貢献実績を明らかにする。さらに、同社の知的財産戦略が、競争優位性や市場シェアの拡大にどのように寄与しているのかを分析する。

## デクセリアルズ株式会社の知的財産部門の役割と活動内容

デクセリアルズは、知的財産を重要な経営資産の一つと捉え、「創造・保護・活用サイクル」を回すことで企業価値向上と持続的成長を支えている<sup>3</sup>。知的財産部門は、代表取締役直下に設置された「法務・知的財産部」の中にあり<sup>4</sup>、既存事業と研究開発・新規事業に係る知的財産業務をそれぞれ担当する2つの課で構成されている<sup>4</sup>。具体的な活動内容は以下の通りである。

- **知的財産の創造:** 社員の発明考案を奨励し、特許出願を促進することにより、知的財産の創出を図っている。社員一人ひとりが知的財産権に対する意識を高め、積極的に発明考案を行うことができるよう、社内教育や発明報奨制度などを導入し、知財マインドの醸成を図っている。<sup>3</sup>
- **知的財産の保護:** 特許権、意匠権、商標権などの取得・維持を通じて、知的財産の保護を図っている。<sup>3</sup>
  - **特許:** コア事業の競争力強化を目的とした積極的な特許取得を行っている。近年における日本特許出願数に対する外国特許出願率は7割を超えており<sup>3</sup>、グローバルな事業展開を視野に入れた権利化を進めている。
  - **意匠:** 製品のデザインや外観を保護するために、意匠権を取得している。例えば、反射防止フィルム「モスアイタイプ」を採用した眼鏡用保護カバーや、ACFのようなテープ状接着フィルムを出荷する際に用いるリールのデザインを意匠登録している。<sup>6</sup> 「モ

スアイタイプ」とは、蛾の目の構造を模倣した反射防止フィルムで、光の反射を抑制し、高い視認性を実現する技術である。<sup>7</sup>

- **商標**: 主力製品の名称を商標登録することで、ブランドの保護を図っている。<sup>6</sup>
- **ノウハウ**: 製造ノウハウなど、特許出願が困難な技術については、秘匿することで保護している。具体的には、従業員に対する守秘義務契約の締結、アクセス制限、情報セキュリティ対策など、厳格な情報管理体制を構築することで、ノウハウの流出防止に努めている。<sup>3</sup>
- **知的財産の活用**: 保有する知的財産をライセンス供与することで収益化を図るとともに、オープンイノベーションや知財 IR などを通じて、企業価値向上に繋げている。<sup>3</sup>
  - **ライセンス**: 保有特許を他社にライセンスすることで、収益化を図っている。
  - **オープンイノベーション**: WIPO GREEN への参画<sup>3</sup>や東北大学との共同研究<sup>3</sup>などを通じて、外部の知財を活用することで、新たな技術開発や事業創出を目指している。WIPO GREEN は、世界知的所有権機関（WIPO）が運営する環境技術のオープンイノベーションを推進するためのプラットフォームである。<sup>3</sup>東北大学との共同研究では、「光メタセンシング®共創研究所」を設立し、光メタセンシング技術の社会実装を目指している。<sup>3</sup>
  - **知財 IR**: 知財の事業貢献度などを積極的に開示することで、投資家とのエンゲージメントを深めている。<sup>3</sup>具体的には、統合レポートや ESG 説明会などを通じて、知財戦略、知財活動、知財ポートフォリオ、知財リスク管理などに関する情報を、投資家をはじめとするステークホルダーに積極的に開示している。

## デクセリアルズ株式会社の成長戦略における知的財産の重要性

デクセリアルズは、中期経営計画において知的財産戦略を重要な柱の一つとして位置づけている<sup>3</sup>。同社は、「コア特許活用戦略」<sup>3</sup>、「知財共創戦略」<sup>3</sup>などの戦略を策定し、事業の意思決定や新規事業創出に活用している。

「コア特許活用戦略」では、主力事業の競争力強化と事業ポートフォリオの見直しを目的として、事業カテゴリーごとの特許スコアを社内で分析し、事業の意思決定に活用している。<sup>3</sup>例えば、特許スコアを用いて、各事業における自社特許の競争力、技術の成長性、競合他社の特許力などを分析し、その結果に基づいて、将来性のある事業への投資を強化したり、競争力の低い事業からの撤退を決定したりするなど、経営資源の最適な配分を行っている。

また、デクセリアルズは、コーポレートガバナンス・コードの改訂<sup>8</sup>を踏まえ、知財・無形資産ガバナンスの実践と情報開示にも積極的に取り組んでいる。統合レポートにおいても、知財・無形資産ガバナンスに対する積極的な活動を開示している<sup>8</sup>。

## 知的財産部門による成長への貢献実績

デクセリアルズの知的財産部門は、特許取得、技術開発、ブランド保護などを通じて、同社の成長に貢献してきた。具体的な事例を以下に示す。

## 特許取得による競争優位性の確保

デクセリアルズは、コア事業の競争力強化を目的とした積極的な特許取得を行っている。近年における日本特許出願数に対する外国特許出願率は7割を超えており<sup>3</sup>、グローバルな事業展開を視野に入れた権利化を進めている。また、海外特許の保有比率は全体の66%であり、これは海外売上比率とほぼ同水準である<sup>3</sup>。

例えば、主力製品であるACFでは、「異方性導電材料」「異方性導電フィルム」といったモノの発明に加え、「異方性導電フィルムの製造方法」や「接続方法」、「接続体の検査方法」といったプロセス技術に関する特許を取得している<sup>6</sup>。このように、材料から製造プロセス、検査方法まで幅広く特許を取得することで、競合他社に対する参入障壁を構築し、市場における優位性を確保している。

また、反射防止フィルムでは、モスアイタイプの微細構造形成技術や、ロールツーロール方式によるフィルム製造技術など、独自の技術に関する特許を取得し、競争力を強化している。さらに、光学弾性樹脂では、高屈折率、低複屈折率、高耐熱性などの特性を有する材料に関する特許を取得し、市場における差別化を図っている。

## 技術開発の促進

デクセリアルズは、研究開発費の27%（2022年度実績）に相当する金額を知財投資に充てている<sup>3</sup>。知財部門は、特許ポートフォリオの強化、知財ミックス（意匠、商標、ノウハウなど）、DX化への投資を積極的に行っている<sup>3</sup>。

特許分析ソフトウェアを用いた特許の価値評価や無形資産価値の可視化にも取り組んでおり、EBITDAと特許スコアの相関性をモニタリングすることで、知財投資の効果を測定している<sup>3</sup>。分析の結果、特許スコアの上昇に伴いEBITDAも上昇する傾向が見られ、知財投資が収益向上に貢献していることが示されている。

具体的な技術開発の成果としては、AIを活用した反射防止フィルムの検査工程への導入が挙げられる。<sup>6</sup>従来、目視で行っていた検査工程にAIを導入することで、検査精度を向上させるとともに、検査時間を大幅に短縮することに成功した。

## ブランド保護

デクセリアルズは、主力製品の名称を商標登録することで、ブランドの保護を図っている<sup>6</sup>。近年では、反射防止フィルム「モスアイタイプ」を採用した眼鏡用保護カバーや、ACFのようなテープ状接着フィルムを出荷する際に用いるリールのデザインを意匠登録している<sup>6</sup>。

## オープンイノベーション

デクセリアルズは、オープンイノベーションにも積極的に取り組んでいる。WIPO GREENへの参画<sup>3</sup>や東北大学との共同研究<sup>3</sup>などを通じて、外部の知財を活用することで、新たな技術開発や事業創出を目指している。

## 知財人材の育成

デクセリアルズは、社員の知財マインド向上を目的とした教育活動にも力を入れている。毎年4月を「知財月間」と定め、知財講演会や発明考案表彰などを実施している<sup>3</sup>。知財月間には、外部の専門家を招いた講演会や、社員による発明発表会、知財に関するクイズ大会など、様々なイベントを開催し、社員の知財に対する意識向上を図っている。

## デクセリアルズ株式会社の知的財産戦略が競争優位性や市場シェアの拡大にどのように寄与しているのか

デクセリアルズの知的財産戦略は、同社の競争優位性の確立と市場シェアの拡大に大きく貢献している。

### 競争優位性の確立

デクセリアルズは、コア技術に関する特許をグローバルに取得することで、競合他社に対する参入障壁を構築し、市場における優位性を確保している<sup>3</sup>。また、特許ポートフォリオの見直しを行い、自社で実施しなくなった特許群については売却やライセンス活動を行うことで、知財リソースを新規事業や開発テーマに転換し、持続的な成長を支えている<sup>3</sup>。例えば、排水処理剤に関する特許を他社に売却することで、知財の有効活用と収益化を図るとともに、その売却益を新たな事業や開発テーマに投資することで、持続的な成長を促進している。<sup>3</sup>

### 市場シェアの拡大

デクセリアルズは、積極的な知財活動を通じて、高品質な製品を開発し、市場に投入することで、市場シェアを拡大してきた。例えば、異方性導電膜は世界シェア**48.6%**、反射防止フィルムは**93.8%**、光学弾性樹脂は**70.9%**と、世界トップシェアを獲得している<sup>2</sup>。これらの製品は、スマートフォンや自動車、ディスプレイなど、様々な分野で高い評価を得ており、デクセリアルズの収益拡大に大きく貢献している。

| 製品名      | 世界シェア | 主要国における登録特許件数 |
|----------|-------|---------------|
| 異方性導電膜   | 48.6% |               |
| 反射防止フィルム | 93.8% |               |

|        |       |  |
|--------|-------|--|
| 光学弾性樹脂 | 70.9% |  |
|--------|-------|--|

## デクセリアルズ株式会社の知的財産部門の今後の展望と課題

デクセリアルズは、今後も「変化・進化する組織」をモットーに、戦略的な知財活動を推進していくとしている<sup>3</sup>。具体的な取り組みとしては、知財 IR の強化<sup>3</sup>、IP ランドスケープを活用した新規事業の探索<sup>6</sup>、保有知財権の活用による利益貢献などが挙げられる<sup>6</sup>。

知財 IR の強化では、統合レポートや ESG 説明会などを通じて、知財戦略、知財活動、知財ポートフォリオ、知財リスク管理などに関する情報を、投資家をはじめとするステークホルダーに、より分かりやすく開示していくことを目指している。<sup>3</sup>

IP ランドスケープを活用した新規事業の探索では、将来有望な技術分野や市場を特定し、その分野における特許の取得や技術開発を積極的に進めることで、新規事業の創出を加速させていく。<sup>6</sup>

保有知財権の活用による利益貢献では、保有特許のライセンス供与や売却を積極的に行うことで、収益の拡大を図っていく。<sup>6</sup>

一方、中期的な課題としては、自動車関連特許のさらなる強化、新規事業の立ち上げ支援などが挙げられる<sup>6</sup>。

自動車関連特許のさらなる強化では、自動運転技術や電動化技術など、自動車分野における最新技術に関する特許の取得を強化することで、競争力を強化していく。<sup>6</sup>

新規事業の立ち上げ支援では、知財部門が、新規事業の企画段階から参画し、特許調査や権利化、知財戦略の策定などを支援することで、新規事業の成功確率を高めていく。<sup>6</sup>

さらに、デジタル化への対応も重要な課題である。<sup>9</sup> デジタル化が加速する中、知財部門は、AI やビッグデータなどの最新技術を活用した知財活動の効率化、知財情報のセキュリティ対策の強化などに取り組んでいく必要がある。

また、将来を見据えた人材育成も重要な課題である。<sup>9</sup> 知財部門は、専門知識やスキルを有する人材の育成に加え、グローバルな視点を持つ人材や、ビジネス感覚に優れた人材の育成にも力を入れていく必要がある。

## 結論

デクセリアルズは、知的財産を重要な経営資産と位置づけ、積極的な知的財産活動を行っている。知的財産部門は、特許取得、技術開発、ブランド保護などを通じて、同社の成長に大きく貢献してきた。同社の知的財産戦略は、競争優位性の確立と市場シェアの拡大に大きく寄与していると言える。

デクセリアルズの知的財産戦略の特徴は以下の3点にまとめられる。

1. **積極的な特許取得による競争優位性の確保:** コア技術に関する特許をグローバルに取得することで、競合他社に対する参入障壁を構築し、市場における優位性を確保している。
2. **知財投資による技術開発の促進:** 研究開発費の27% (2022年度実績) に相当する金額を知財投資に充て、特許ポートフォリオの強化、知財ミックス、DX化への投資を積極的に行っている。
3. **オープンイノベーションによる新規事業創出:** WIPO GREEN への参画や東北大学との共同研究など、オープンイノベーションにも積極的に取り組んでいる。

デクセリアルズは、今後も「変化・進化する組織」をモットーに、戦略的な知財活動を推進していくことで、持続的な成長と企業価値向上を目指していくと考えられる。具体的には、知財IRの強化、IPランドスケープを活用した新規事業の探索、保有知財権の活用による利益貢献、自動車関連特許のさらなる強化、新規事業の立ち上げ支援、デジタル化への対応、人材育成など、様々な取り組みを進めていくことで、さらなる成長を遂げていくことが期待される。

## 引用文献

1. デクセリアルズ、顧客が気付かない技術課題を先読みし、最適な製品の提案・ソリューション開発を実現 投稿日時 - みんかぶ, 2月27, 2025 にアクセス、  
<https://minkabu.jp/news/3479487>
2. 機能性材料メーカーが、コロナ後も好調な理由 次々と世界シェア No.1 を生み出す底力とは？ | デクセリアルズ | 東洋経済オンライン, 2月27, 2025 にアクセス、  
<https://toyokeizai.net/articles/-/472118>
3. 知的財産戦略 | サステナビリティマネジメント - デクセリアルズ, 2月27, 2025 にアクセス、  
<https://www.dexerials.jp/sustainability/management/ipstrategy.html>
4. デクセリアルズ株式会社 - 日本知的財産協会, 2月27, 2025 にアクセス、  
[http://www.jipa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2020\\_11\\_1670.pdf](http://www.jipa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2020_11_1670.pdf)
5. 【デクセリアルズ】「第1回知財・無形資産ガバナンス表彰」特別賞を受賞 - PR TIMES, 2月27, 2025 にアクセス、  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000089.000064805.html>
6. デクセリアルズ株式会社, 2月27, 2025 にアクセス、  
[https://www.dexerials.jp/asset/pdf/ir/library/esgbriefing220117\\_ga.pdf](https://www.dexerials.jp/asset/pdf/ir/library/esgbriefing220117_ga.pdf)
7. 反射防止フィルム - Dexerials, 2月27, 2025 にアクセス、  
<https://www.dexerials.jp/products/anti-reflection-film/>
8. 【デクセリアルズ】「第1回知財・無形資産ガバナンス表彰」特別賞を受賞 - BIGLOBE ニュース, 2月27, 2025 にアクセス、  
[https://news.biglobe.ne.jp/economy/0217/prt\\_250217\\_2136703929.html](https://news.biglobe.ne.jp/economy/0217/prt_250217_2136703929.html)
9. 中期経営計画2028『進化の実現』 - Dexerials, 2月27, 2025 にアクセス、  
[https://www.dexerials.jp/asset/pdf/sustainability/download/Dexerials\\_Report\\_2024\\_J\\_03\\_Value\\_Creation\\_Strategy.pdf](https://www.dexerials.jp/asset/pdf/sustainability/download/Dexerials_Report_2024_J_03_Value_Creation_Strategy.pdf)